



主体性を育む「心のゆとり」

教頭 吉岡 真左美



5月23日に、聖マグダレナ・ソフィア・バラの祝日を記念して運動会が行われました。

当日に向けて、クラスや学年、チームや係など、色々な場面で仲間とともに、マザーバラにお捧げする気持ちで練習や準備を進めました。運動会当日、保護者の皆様に温かな声援をいただいたことは、子どもたちにとって大きな喜びであり、頑張ってきたことの達成感につながります。保護者の皆様のご協力に感謝申し上げます。

運動会など学校での行事や活動において主体的に取り組む児童の姿は清々しく、周りの人への良い刺激になります。「あのお姉さんのように、私も集中して頑張ろう」「あのお友だちみたいに、自分から気づいて係のお仕事をしよう」と、他者から学ぶ機会が多くあるのが学校の魅力です。そして何より、自分で考えて行動し、それが誰かのためになったり新たな気づきを得たりすると、自己肯定感が高まり、次の行動に自信と希望を持って進むことができるようになります。これが『生き抜く力』につながっていくと考えます。この『生き抜く力』は、変化の大きいこれからの時代を生きていく子どもたちにとって、とても重要な力です。その力をつける上で欠かせないのが、『主体性を育む』ことです。

主体性を育む重要性は昔から言われてきましたが、現代ではますます重要になっています。育むためのアプローチは色々考えられますが、『心のゆとり』もポイントのひとつだと思います。

宿題や習い事などで毎日たくさんのタスクがあると、真面目なお子さんほど「早く終わらせなければ」と焦り、目の前のことをただ「こなす」だけの状態になりがちです。しかし、効率よくノルマを消化していくだけでは、本当の意味での『主体性』は生まれにくくなります。

“自分で選び、自分で考え、試してみる”経験を積み重ね、そこに“楽しさ”を見いだせると、主体性は育まれていきます。そのためには、時間的にも精神的にも『心のゆとり』が必要です。心にゆとりがあると周りに目を向ける余裕が生まれ、新しい興味が出てきたり、自分なりに考えをふくらませたりすることができます。聴く力の向上も期待できます。

これは、大人にも同じことが言えると思います。日々の仕事においてノルマや効率性を求められることは多々ありますが、そこに終始してしまうと味気ない生活になってしまいます。「忙しい」「心のゆとりがない」と感じた時は、いったん立ち止まって、タスクの優先順位を整理してみるのも一案です。お子さまの場合は、保護者の方が一緒に整理してみるのもお勧めです。もしかして、今は無理にやらなくてもよい・・・というタスクもあるかもしれません。“何事も経験”とはいうものの、却って忙しくなりすぎて心のゆとりがなくなってしまうことにならないように、学校における教育活動においても留意しています。



6月 みこころの月のプラクティス

よい目、よい耳をもつ ー神様と隣人につながるー

「よい目、よい耳をもつ」という言葉を通して、「よい」ということを問いかけながら生活していきます。立ち止まって見る、立ち止まってあらためて聞く場面を大切にしていきます。

～カトリックの洗礼、初聖体をお受けになった方は、連絡簿でお知らせください～

今年度の学校目標「心の目、心の耳を働かせよう～沈黙、内省、実行～」を受けて、初等科では、毎朝のお祈りの前に沈黙の時間を取り一日の生活を始めています。静かな時間を取ることでよさと気持ちを集中させていく難しさを感じながら日々を過ごしています。沈黙の大切さをあらためて知る機会を得ています。

心の目、心の耳を働かせながら、沈黙から内省へ、そして実行へと心に向けていく道筋は、教会で言われる「識別」を思い起こさせます。昨年亡くなられた前教皇フランシスコは、「識別とは、適切なタイミングを捉えるために、知恵を、そして経験や意思をも生かすことだと分かります。これらは、よい選択をするための条件です。」と教えられました。心の働きを高めるために、沈黙が必要であり、そこで、知識、経験、感情、意思が総動員され、より良い選択、実行となって現れていきます。

4月からの生活での取り組みを一步進めるためには、と宗教科で話し合っているときに、高田三郎氏の典礼聖歌409番をヒントに示してくださる先生がいました。

「呼ばれています いつも
聞こえていますか いつも
はるかな遠い声だから
よい耳を、よい耳を 持たなければ . . . 」

心の働きを高めていくためのヒントとして「よい」とは. . . と、子どもたちと話しながら過ごしていけたらと思います。歌詞には、「よい目」はありませんが、もし歌詞があれば、示されていることに気づくという意味になるのでしょうか。私に授けられたよさ、まわりの方々のよさへの気づき、いつも私たちと世界を取り巻く大きな存在が示されていくことへの気づき。

「よい目、よい耳をもつ」プラクティスで、立ち止まりあらためてよく見て、よく聞こうとする心の働きを大切にしていきたいです。そこから生まれた気づきが神様や隣人につながっていく。先日、学校を訪問された聖心会総長 Sr. クレア・カスタンが、「橋をかける」というメッセージを下さいました。“An Artisan of Peace is someone who builds bridges instead of walls.”

「よい目、よい耳」は気づきを高めていきます。気づきは私たちが今まで見逃していた出来事に橋をかけていきます。心を働かす日々の学びを高め、狭い自分をこえて広い世界へと橋をかける選択を生み出すものとなっていくことを願います。



5月20日、聖心会総長様と顧問のシスター方をお迎えして、聖マグダレナ・ソフィアのお祈り会をしました。



みこころの月：6月の行事予定

1日(月)	1・2年ファミリールール(13:00～)	19日(金)	みこころの祝日行事
2日(火)	～4日(木) 5年校外学習(清里)	20日(土)	第1回5年転入編入・帰国生 学校説明会(PM)
5日(金)	(5年生休み)	22日(月)	3・4年ファミリールール(13:10～)
6日(土)	第1回初等科学校説明会		5・6年ファミリールール(14:20～)
11日(木)	一日学校参観日① 下校グループ親子集会(4限)	23日(火)	～24日(水) 6年まどめのテスト①
12日(金)	家庭学習日(私学一日研修)	25日(木)	6年英単語検定(4限)
17日(水)	5年ストップいじめナビ 講演会(6限)	30日(火)	6年ばら・ゆり組美術館見学 (PM)